

(別添3)

【大洗町】 校務DX計画

【現状】

大洗町では、令和2年度にGIGAスクール端末及びネットワーク環境の整備を実施し、令和4年度には統合型校務システムの整備をするなど、不要な手入力の削減等による業務負担の軽減や、情報共有の一元化に努めてきたが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

大洗町では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習等が少しずつ進んでおり、校務としても保護者連絡アプリを導入し、生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が進んでいるが、教職員が学校へ資料を提出する事務手続きはクラウド化されておらず、負担となっている状況である。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、一部業務においては、教育委員会や業者とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況が残っており、廃止が出来ない状況である。

また、教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”といった無駄な時間が発生している状況である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

大洗町では、学習用端末で管理している情報について、必要に応じてUSBを使い校務用端末へデータ移行している状況であり、余計な業務が発生している状況である。また、USBを使用する際の事務手続きによる業務負担の増加、USBの紛失リスクといったことも懸念される。

また、生徒の欠席・遅刻等に関して保護者からメールで受け付けた後、教職員が別途校務システムへ入力し、管理者へ報告をしている状況であり、教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から大洗町では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの欠席・遅刻等による電話対応の削減を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図る。

会議で用いる資料等はWeb会議ツールなどの資料共有機能を利用することを推奨し、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は省略できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務系と学習系のネットワークを統合し教職員の端末を1台にすることで、USBを使用したデータ移行などの業務負担を軽減する。また、USBを廃止することで、紛失による情報漏洩リスクや情報の散在による漏洩リスクの軽減を図る。